―――江部乙丘陵地のファンクラブ―――

今日の観察ポイント

2017 年 9 月 24 日

赤い葉・黄色い葉　～紅葉する樹木たち～

一枚の落ち葉から何の樹がわかるとちょっとカッコいいですね。同じような葉ですが見るポイントがあります。まずは葉の形ですが、針状、細長い葉、丸い葉、ハート形の葉、カエデの様な切れこみのある葉、いわゆる葉っぱの形のものなどに分かれます。次に葉の縁に棘(鋸歯)があるかないか、表面の光沢や毛の有無、葉脈の分かれ方、一枚づつつくのか(単葉)、複数でつくのか、さらにその枚数で羽状複葉、三出複葉などに分かれます。枝ごと観察できれば互生か対生か、実や花の痕があればさらに情報がふえますね。またこの時期は緑のまま(常緑樹)、赤くなる、黄色くなるといった紅葉の情報も得られます。今日は色づいた落ち葉にルーペをかざして、よくみてみましょう。

【ハウチハカエデ】　カエデ科

緑・黄・赤と色を変えていく北海道の紅葉の見本のようなカエデです。一枚の葉の中でも 3 色みられることもあります。比較的大きく(7～12cm)、切れこみは7～11 裂と多めですが、浅く、掌状です。葉縁は重鋸歯(2 重にギザギザ)。葉柄が短めで葉身の 1/2 以下なのも特徴です。カエデに特徴的な 2 枚の翼をもつ実も見つかるでしょう。2 枚の翼の角度もカエデ科の鑑別ポイントで、水平に近い広がった羽根です。

【オオモミジ】 カエデ科

赤く紅葉するいわゆるもみじの仲間で、ヤマモミジ、イロハモミジとの鑑別が難しいです。北海道で自然分布するのはオオモミジとされていますが、もみじの仲間は観賞のため移植株があり、さらに園芸種や雑種もあるので非常に厄介です。葉は 5～11cm、通常7裂で、それぞれの尖端はとがっていますが裂片の途中で膨らんだような形に特徴があります。さらに決め手は葉縁の鋸歯が細かく他の2種ほどめだちません。ヤマモミジは、5～11cmと同じ大きさですが、5～7 裂、鋸歯が荒く2重になっています。イロハモミジは 3～6cmとカエデ科で最小で、5～7裂、鋸は2重ですが裂片は細く、可愛いモミジの手の感じです。

【イタヤカエデ】 カエデ科

北海道の黄色い紅葉を代表するカエデ。5～15cmと大きさに差があります。5～7 裂(まれに3裂にみえるのも)ですが、全体が5角形で、ちょっと他のカエデと違う感じです。メープルシロップのとれるサトウカエデと近い種で、カナダの国旗を思い浮かべてください。さらにカエデ科の仲間では珍しく、葉縁にギザギザがない全縁です。 実の翼の角度は鋭角です。

【ハリギリ】 ウコギ科　別名センノキ

落ち葉だけみていると大き目のイタヤカエデとよく似た 5 裂の手のひらのような黄色い葉です。でも葉の縁をよくみてみると、ギザギザ(鋸歯)があります。大きさもイタヤカエデより大きく、20cmをこえるものもあります。樹をみれば、おなじみのトゲのある木で、葉柄もさわるとちょっと棘があります。

【カツラ】　カツラ科

黄色い、4～8cmの柄のつくところが切れこんだハート型のかわいい葉です。縁には波状の鋸がありますが、トゲトゲしておらず、全縁にみえます。葉は対生です。若芽は赤く、幼木は赤く紅葉するものもあります。また黄色というよりややクリーム色みたいな淡い色のこともあります。黄色くなった葉は甘いカラメルの様な匂いがするといわれていますので、香りもチェックしてみましょう。雄雌異株。

【シナノキ】 シナノキ科

これも黄色く色づく、ハート形の 4～10cmの葉ですが、尖端はとがり、なによりトゲトゲした鋸歯縁があり、葉の出方も互生でカツラとは別の葉であることがわかります。自然観察の森にも多く、丸加山を代表する落葉樹といってもいいかもしれません。特徴的な一枚の羽根(苞が変形)をもつ実をさがしてみましょう。兄貴分のオオバボダイジュは葉も実も一回り大きく、葉の裏や葉柄に細かい毛が生えています。

【ヤマウルシ】 ウルシ科

9 月から早くも色づき始める赤い紅葉の代表格ですが、条件によって橙から赤黒くなることがあります。奇数羽状複葉で、小葉は 11～17 枚つき、一枚づつは 6～12cm。

【コマユミ】 ニシキギ科

美しい赤い紅葉と実を鑑賞するため植栽もされます。 写真だけでみるとヤマウルシの様な付き方ですが、こちらは普通に枝からの対生で、葉縁も結構鋸歯があります。

(写真･文: 磯)